

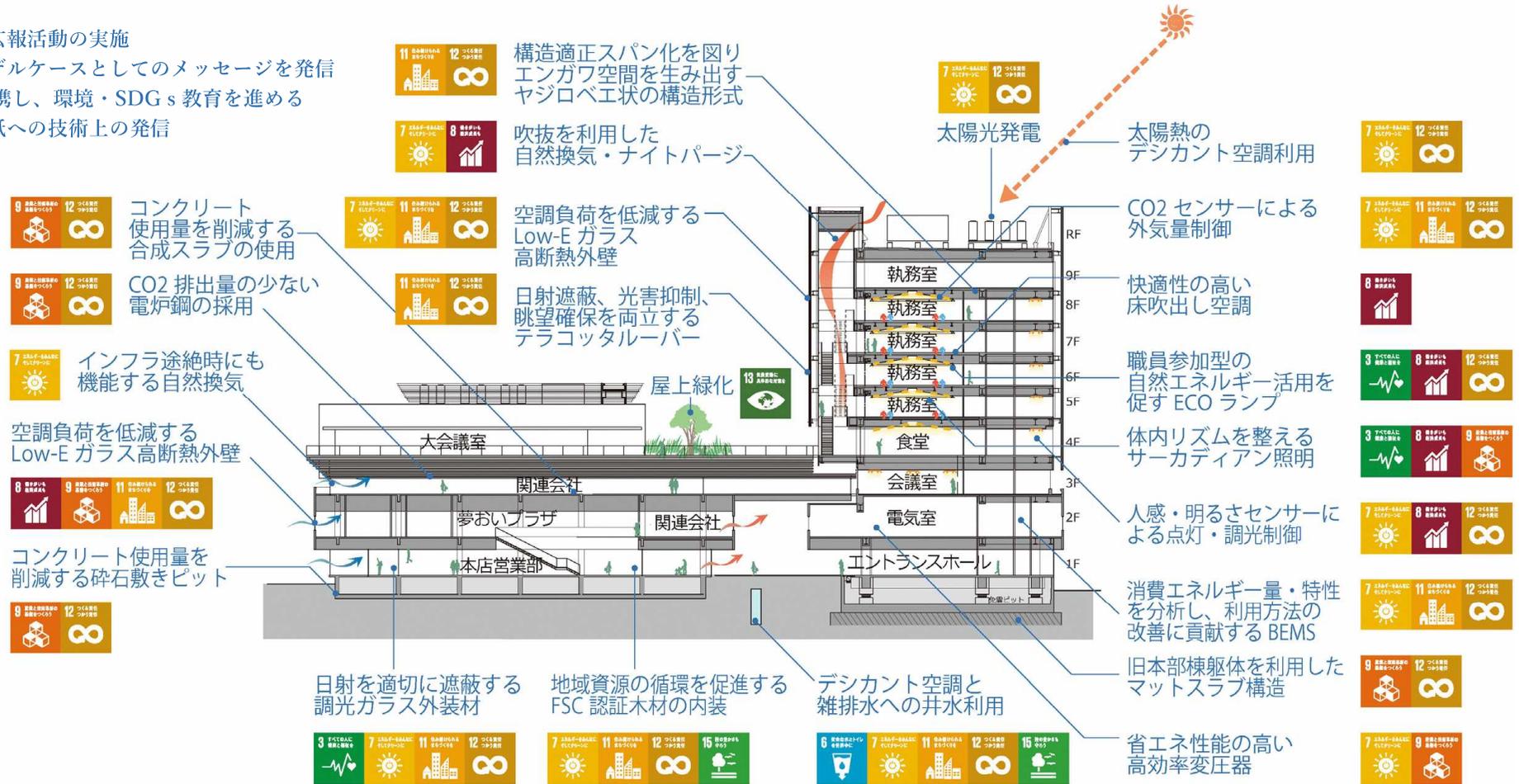
表彰対象建築物名称	浜松いわた信用金庫本店棟			環境配慮の内容とその目的
建設地	浜松市中区元城町			<p>■室内環境対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階本店営業部ロビーには調光ガラスを採用することでブラインドを無くし、浜松城への開けた眺望の確保と日射負荷の低減を両立させている。 ・居室の多くに横連窓を配して採光確保と自然換気を可能とした。 <p>■室外環境対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物上階のセットバックを行い近隣住宅への圧迫感を低減すると共に屋上テラスを設え滞在空間とした。 ・敷地外周をフェンス等で仕切らず植栽帯を設け、周囲に開いた環境づくりを行った。 <p>■サービス性能対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある階高設定と執務空間全体のOAフロア設置により、設備機器のメンテナンス性と更新性の向上、執務空間のレイアウト変更に柔軟に対応できる設計としている。 <p>■エネルギー対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物全体の断熱性能を高め、西日対策で1階調光ガラスや2階電動ロールスクリーンを設けるなど日射負荷を軽減している。 <p>■資源・マテリアル対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の循環を促進させることを目指し、FSC認証木材を内装材や家具に採用した。 <p>■敷地外環境対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光害を抑えるためテラコッタタイルの外装材を採用し、建物外壁の反射光の発生を低減させる取り組みを行っている。
建築主	浜松磐田信用金庫 会長 御室 健一郎			
設計者	株式会社日建設計一級建築士事務所 塩田 哲也			
延べ面積	4,493.35 m ²	規模	地上4階	
構造	鉄骨造			
用途	事務所			
CASBEE評価	A	BEE値	2.1	
建築物写真				
建築主として求めた環境配慮に対する総合的なコンセプト	<p>FSC認証木材の内装、自然素材のテラコッタ外装、外構部の積極的な緑化などによって地球環境・地域環境への調和を図り、職員・来客・地域住民に向けたSDGsモデルの発信例となる金融機関本店建物を目指した。</p>			

環境配慮の内容とその目的（補足資料）

SDG's 先導モデルを目指した環境配慮の取り組み

これからの対外的な広報活動の実施

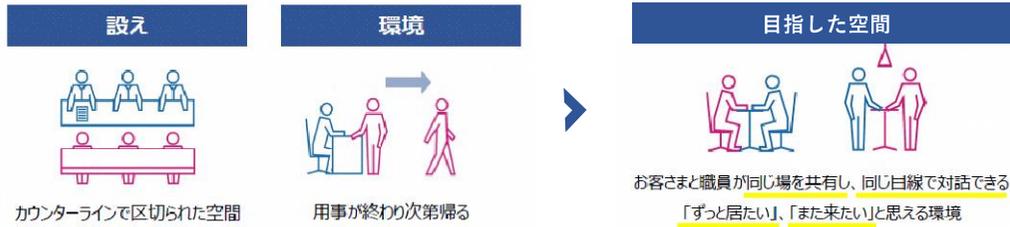
- ・地方金融機関のモデルケースとしてのメッセージを発信
- ・SDG's 推進部と連携し、環境・SDG's 教育を進める
- ・建築系学会や業界紙への技術上の発信



環境配慮の内容とその目的（補足資料）

浜松城への眺望と西日対策を両立した本店ロビー空間

- ・最先端の外装用調光ガラスや電動ロールスクリーンの採用
- ・待合としてだけではなく豊かな滞在を目指したロビー空間づくり



大会議室 木ルーバー天井



1階ロビーに使用された調光ガラスは日射を遮蔽しながら、グラデーションに眺望を確保する。

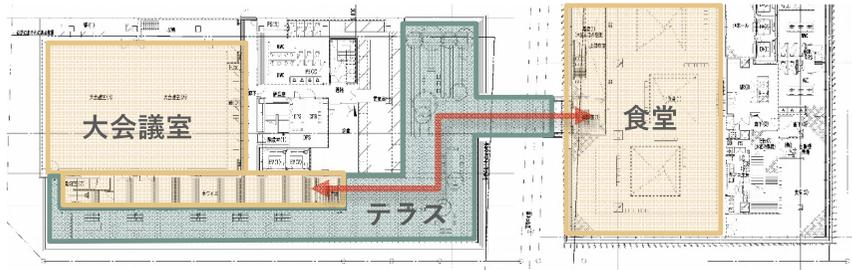


地球環境との調和を図り、壁・天井仕上げにはFSC認証木材を採用した。

環境配慮の内容とその目的（補足資料）

屋外の滞留空間を設けつつ、周囲の景観との調和を図った外観計画

- ・上階ほど通りからセットバックする構成として街への圧迫感を低減した
- ・屋上テラスは食堂～大会議室と繋がり、屋外環境を感じられる憩いの場になる



通りに対してセットバックした建物ボリューム



屋外で集えるテラス



浜松城への景観づくり

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松いわた信用金庫 本店棟	階数	地上4F
建設地	浜松市中区元城町114番1	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年8月 予定	評価の実施日	2021年2月3日
敷地面積	1,702 m ²	作成者	小野竜也
建築面積	1,331 m ²	確認日	2021年2月3日
延床面積	4,493 m ²	確認者	佐藤孝広



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 81%

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.0

Q1 室内環境: 3.7

Q3 室外環境(敷地内): 3.8

LR1 エネルギー: 3.9

LR2 資源・マテリアル: 3.7

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>浜松城へ広く開いた敷地形状を活かすべく、西面にガラス開口部を設け贅沢な眺望を確保した。一方で西日対策にも取り組み、来客空間となる1階への調光ガラスの採用や、4階の大広など日射負荷低減の工夫を凝らしている。1階外構や4階屋上テラスには植栽を配して、周囲への景観向上に寄与するとともに、県産木材の積極的活用、エネルギーマネジメントシステムの見える化表示など、職員のみならず来客者や地域住民にまで目を向けた、SDGsモデルの発信例となる金融機関建物を旨とする。</p>	<p>その他</p> <p>4階屋上にテラスを設け、家具や緑を配して職員に開放することで、自然環境が感じられるリフレッシュ空間をつくり出している。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>居室の多くに窓を配して採光を得るとともに、自然換気窓として外気を取り入れる計画としている。来客が訪れる1階西面には調光ガラスを採用することで、浜松城への開けた眺望の確保と日射負荷の低減を両立させている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>ゆとりある階高設定と、執務空間全体のOAフロア設置により、設備機器のメンテナンス性と更新性を向上させ、執務空間のレイアウト変更にも柔軟に対応できる設計となっている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>近隣住宅への圧迫感低減のため建物上階のセットバックを行うとともに、1階の北西面には植栽帯を、南東面には歩行者空間を設けて、周囲に開いた環境づくりをしている。4階屋上にも植栽を設け、景観向上に寄与している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物全体の断熱性能を高めることでエネルギー消費量を低減し、さらにCO₂削減量等の数値を見える化し来客スペースに表示する取り組みを行う。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>使用材料には汚染物質となる物を採用しないよう心がけており、さらに内装で使用する木材には地産地消を促進する県産材を多く採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>光害を抑えるために、建物外壁の反射光の発生を低減させる取り組みを行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	浜松いわた信用金庫 本店棟	BEE	2.1	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取り組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取り組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5	ふつつ		★★★★	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.2	/5	よい		★★★★	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.6	/5	よい		★★★★	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.4	/5	ふつつ		★★★★	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			得点		3.8		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①調光ガラス、大庇の採用による開口部の温熱環境の向上。 ②調光ガラス、大庇の採用 ③レンガタイル外装など反射を抑えた材料の採用 ④外装材は30年以上の耐用年数で計画 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤地場産材木材の採用 ⑥接道する外構には緑地帯を配置 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦調光ガラス、レンガタイル外壁の採用 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑬GWPが低い断熱材の使用 	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
		2			⑧	自然エネルギー利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
			4.2		⑩	運用管理体制	
	LR-2	1	1.1		⑪	節水	
		2	1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取り組み	
		3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用	
			3.2	3.2.1	⑬	消火剤	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
		2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			得点		4.2		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法基準の25%増しの耐震性を確保 ⑰非発、電源2重化、異変電所から受電、電気室の4階設置 ⑰耐震アクリス 	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			得点		4.6		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑地場産材の内装材への採用、屋上テラスの設置 	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
			3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
	Q-3	3	3.1		⑳	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			得点		3.4		
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒地場産材の内装材への採用 ㉓接道する外構には緑地帯を配置 ■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉕燃焼機器を設置しない 	Q-3	1			⑳	生物環境の保全と創出	
			2			㉓	まちなみ景観への配慮
		3	3.2		㉔	敷地内温熱環境の向上	
	LR-3	2	2.2		㉕	温熱環境悪化の改善	